

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	民家への高速道路崩落に伴う救助活動中のＬＰＧボンベ引火事例
3. 体験した事例の中心的要素	大量の土砂が民家を押し潰し、居住者が行方不明という状況の中、人命の検索・救出を最優先として、人力及びショベルカーによる土砂排除作業中、埋没していたＬＰＧ配管をショベルカーの先端で切断し、何らかの火源により着火した。幸い、他への延焼等はなかったが、ガスの滞留、噴出及び爆発等、重大な二次災害の危険性があった。
4. 体験した事例の原因・理由	ショベルカーの操作が民間人であり、ＬＰＧボンベの危険性に対する認識が低かった。また、先に１本ガスボンベを排出しており、２本目が残存していることに対する注意が不足していた。このような災害現場においては、ガスボンベが一般的に２本設置してあることを念頭に、活動することが大切である。また、消防、警察、自衛隊及び民間人が共同で作業に従事し、組織の統制が不十分であったことも一因であると考えられる。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。状況判断に問題があった。行動の実行に問題があった。
------------------	---------------------------------------

.....

1. 発生日時	平成 17 年 9 月 8 日 午後 6 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：台風に伴い山間部において高速道路が崩落し、民家 2 棟が埋没した。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	爆発・破裂、火傷・熱傷、
7. 事例体験時の活動	風水害等の災害、現場活動中期、 []
8. (7 の活動中) どのような作業中に発生したか	その他：埋没家屋からの行方不明者の救出作業
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[54]歳、 勤続年数[30]年、 現場経験年数[30] 年、 階級[消防司令]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [複数隊の隊長]
○当事者 B	年齢[51]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[25]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 [その他：土木作業員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

1 1 . 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A	民家埋没現場にて、消防の責任者として指揮	
経過 2	当事者 B	ショベルカーによる土砂等排出作業実施中	
経過 3		ショベルカーの先端が L P G 配管に接触、切断	
経過 4		何らかの火源によりガスが発火	
経過 5	当事者 A	バケツリレーで周辺への注水、延焼防止	
経過 6	当事者 A	バルブ閉止、ポンベ撤去	
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

集中力、注意力があった。指揮者が適切に指示した。他隊(員)との連携活動がうまくいった。

- ## ○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c . 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d . 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○ 装備・資機材について

e . 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○ 活動環境について

f . 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g . 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h . 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○ 指揮・管理について

i . 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k . 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	はい

○ その他

l . その他の理由があった。

はい：未経験の災害現場で複数の機関が活動し、特に民間業者が参加していたため、統制が不十分だった。
--

崩落現場におけるLPGボンベ引火事例概略図

